

第二椎の実子供の家 令和6年度 事業報告

園舎完成後12年が経過し、施設・設備の維持向上のため、民間保育所整備事業助成を活用して、外壁等の塗装、照明器具・厨房空調設備の更新などの大規模修繕工事を行った。現場では、1月下旬から2月末までの1カ月間程度の工期で、晴天が続いたおかげで順調に工事は進んだ。一方で、子ども達が塗料を触ってはいけないため、園庭に出られない日が多かったが、子ども達は安定している時期であり、積極的に散歩に出かけるようにした。近隣公園はもちろん、三鷹警察署や三鷹消防署下連雀出張所など色々な所にでかけることができた。

三鷹市上連雀地区は、市内では転出、転入が多い地域であり、令和6年度はその影響を大きく受けた。令和6年6月末から令和7年3月末までに13人の園児が途中退園している（うち2軒は三鷹市内での転園）。一方で、令和6年6月1日から令和7年2月1日までに、9人が入園してきている（うち2軒は三鷹市内の他園からの入園）。家庭の都合や急な転勤などは常にあるが、急激な少子化により、市内の保育園間の異動も多いため、長くこの地で保育が続けられるよう、職員一同で努力していきたい。

また、令和6年度の事業計画で、SNSなどを活用した広報活動に力を入れるという目標を立て、ホームページはじめ、Instagram、ラインなどでの広報活動に力を入れた。保育園の宣伝効果は高く、その成果を上げた。

重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- VI 大規模修繕を行い、建物の安全性を高める

I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

0歳～2歳児は、モンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。0歳児の散歩は、中央公園までバギーで行き、現地ではそれぞれがでこぼこ道や坂道をたくさん歩く練習をした。1、2歳児は、近隣を歩く練習をしながら、2月には長い距離を友達と手をつないで歩けるようになっていった。

3、4、5歳児は、縦割り混合クラスで過ごし、年長児が年下の子をお世話することで、思いやりや憧れの心を育むことができた。散歩も異年齢で出かけたり、色々な経験を重ねていった。

C組は、年間を通じて就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をきれいに書く練習やひらがなの練習など、就学前の準備を行った。

お別れパーティーは、全クラスがホールに集い、プレゼントを手渡したり、歌やメロディーベルを披露したり、楽しい時間を過ごすことができた。また、幼児クラスは、7年ぶりにホールでバイ

キングを行うことができた。

II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

お便り等を活用し、保育園の活動の目的や成果を知らせ、保育に関する理解や興味を持っていただけるよう努力した。また、ドキュメンテーションは毎日配信し、保護者に好評であった。コードモンでは保育の様子を動画で配信できるため、日々の生活の様子やお散歩の様子、行事などを送信し、こちらもとても喜ばれた。写真では理解できなかったことも、動画を見ることでより深く理解することができた、という声も多く聞かれた。

クラス懇談会や保育参観を行い、保護者との信頼関係が深まるよう努めた。保育参観の際は、給食の試食を提供し、より保育園給食への興味を持ってもらえた。また、保育参観の日には個人面談も行い、お子さんに対する共通理解を図ったり、生活習慣の状況を確認し合ったりすることができた。

III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

次世代を担う保育士の育成として、子ども一人ひとりに今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。

幼児教育機関として、市内の各施設との連携も行った。特に子ども発達支援センターの巡回指導は全5回利用することができた。その他保健センターを活用するなど、課題のある子や家庭は専門機関に繋げるよう努めた。職員も課題のある子や家庭をどのタイミングでどこに繋ぐべきか、具体的な対応に自信を持つことができた。

IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。特徴的だったのは、夏から秋にかけて手足口病が流行した。型が違えば2～3回罹患する子もいた。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた。また、パート職員も含め、全員がエビペンの使い方を練習した。

V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

一時預かりの利用者が、令和5年度の年間延べ1,011名を超え、1,064名の利用があった。1、2歳児の登録者が多く、また、4時間以上の利用が多いのも特長である。口コミはもちろん、Instagramやラインでの広報の成果が反映されている。また、利用者が翌年度入園してくる家庭も少なくはないので、今後も地域との大切な接点としていきたい。

地域子育て家庭に対しては、保育所体験を開催し、マット遊びや砂場で遊ぶ機会をつくった。在園生とも関わることができた。回数は多くできないものの、希望者が多い場合は、予定人数より多く受け入れるよう努めた。

園と保護者の関係については、子どもを共に育てる者として、基本的に担任が信頼関係を築いていく努力をした。気になるお子さんやご家庭に関しては、園長や主任も面談に入るようにし、悩みや苦勞などに寄り添うよう配慮した。

保護者によって運営されている「どんぐりコミュニティ」においては、行事への参加や保護者同士の結びつきが強くなるような活動をしてくれた。

Ⅵ 大規模修繕を行い、建物の安全性を高める

東京都と三鷹市による民間保育所整備事業助成を活用し、園舎の外壁塗装を行なった。また、下地補修工事、電気設備工事（非常灯のLED化等）が施され、より安全性が確保された。厨房は光熱費の節約に繋げるため、エアコンの交換を行った。

約1か月間の工事期間ではあったが、職員の動線、子ども達の動線を工夫し、事故が起きないよう、無事に終了することができた。また、保護者の協力も得ることができた

第二椎の実子供の家

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数※	保育士
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名
つくし	2歳児	22名	22名	4名
もも	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	7名	
	5歳児	8名	8名	
さくら	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	8名	
	5歳児	8名	7名	
あんず	3歳児	8名	8名	3名
	4歳児	8名	6名	
	5歳児	8名	6名	
合計		120名	114名	18名
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名

職員数	
園長	1名
主任	2名
保育士	20名
看護師	1名
栄養士	1名
調理員	2名
非常勤職員	21名
嘱託医	1名
49名	

※令和7年3月31日現在